

囲碁にまつわる言葉【タケフ】

大会開催を案内すると、市民から次のような質問が寄せられます。それに対し
て碁老連会長だった熊崎正一氏は次のように答えています。

質問1：「碁会所では初段(免状所持)で打っているが、同好会では二段で加入して
いおります。大会申し込みは初段でよろしいでしょうか」

熊崎会長：会員ですから当然二段で参加して頂きます。初段での参加は認められ
ません。

質問2：「現在碁会所では2級でうっているが、会社の囲碁部では日本棋院より
初段の免状を頂戴しております。大会ではどちらで参加したらよいでしょうか。」

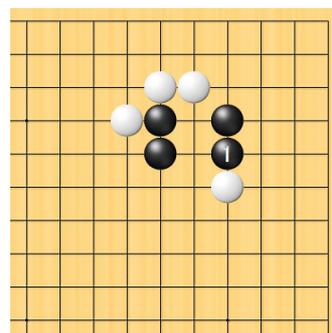
熊崎会長：どちらでも結構です。ご自分の判断で決めて下さい。

熊崎会長：以上のような照会は、同好会に加入された場合、数多く見られる現
象ですが、老人の集まりですから「勝負にこだわらないで、碁を楽しむことに
重点をおいてください」と申し上げております。

熊崎会長：碁老連関係の会員は、町の囲碁界より段位が甘いようです。それは、
若い人たちと張り合っても所詮無理な話で、老人は老人同士、気楽にやりまし
ょうという環境がそうさせているのでしょう。

---- 【タケフ】 ----

石を分断する手に「出切り」があります。相手の石を連結させない手です。それを防ぐのが【タケフ】です。漢字では「竹節」、中国では双関となります。連結した二子が平行に並んでいる形で、確実な連絡形として用いられます。出切りを防ぐのです。竹の節に形が似ていることから「竹節」となりました。



単に石をツグだけでなく、相手の石にぶつける手が【タケフ】ですから、後にハネを狙える間接的に攻撃する手ともなります。タケフは効率よいつなぎ方といえます。英語では文字通り「bamboo joint」と呼ばれます。

(2023年5月15日 大和田囲碁同好会 成田 滋)